

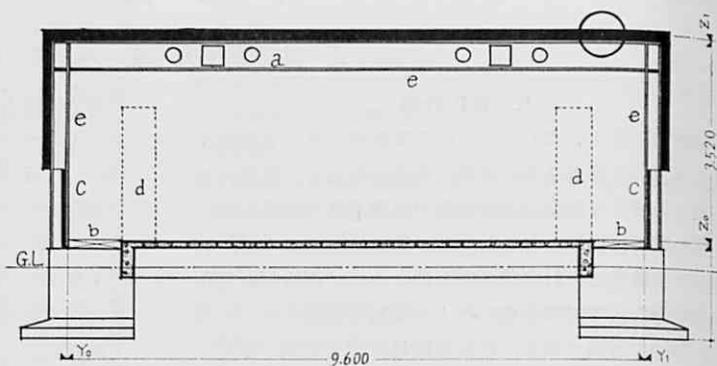
池 辺 陽

建築設計メモ

構成計画	池辺研究室
構造計画	坪井研究室
設備計画	勝田研究室

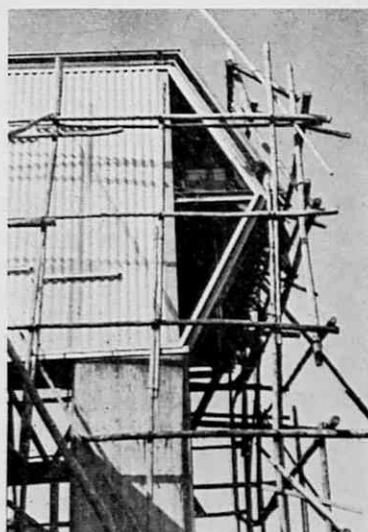
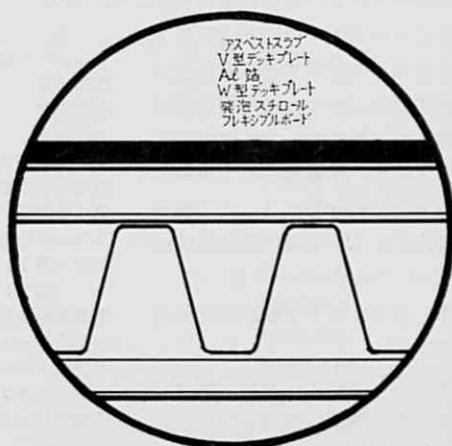
建築物概要

テレメータセンター (T.C)	221.2m ²
コントロールセンター (C.C)	122.9m ²
計器センター (I.C)	49.2m ²
ロケットセンター (R.C)	474.6m ²

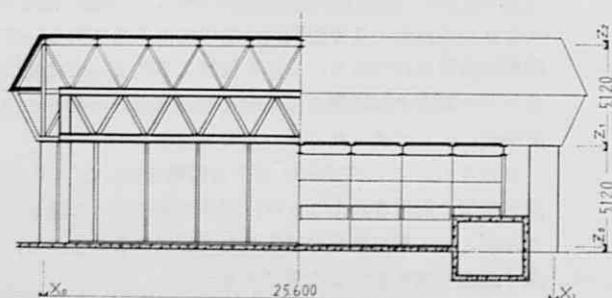
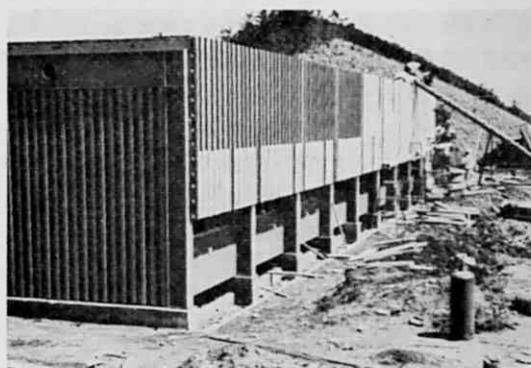


a 空調ダクト b 配線ダクト c 採光用壁 d 計器類 e 構造用H型钢

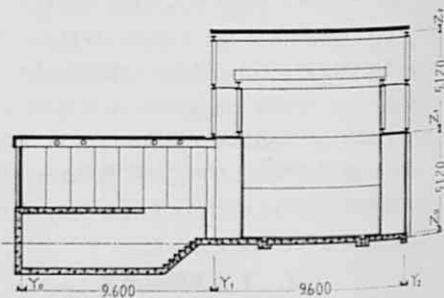
第1図 基本断面図

ロケットセンター入口部分 高さ10m
240トラス止部に扉の電動装置第2図
基本構成図

テレメータセンター外部。サンドイッチ構造施工中 →
→ デッキプレートに発泡プラスチックが取り付けられ、この上を石綿セメントボードがおお。窓はアルミニウム、強化ガラス、窓下はホーロー鉄板



第9図 R.C. 断面図 (a'-a)



第8図 R.C. 断面図 (b-b')

建築施設として現在までに建設されたものは、ロケットセンター、テレメータセンター、それにコントロールセンター、計器センターの一部である。設計条件としては、土地条件、今後の増設計画、プロテクターとしての役割等を考慮して、できるだけ共通的な設計にまとめることとし、ロケットセンター以外はすべて同一構造となっている（第1図）。

この構造はスパン 9.6m、桁行 2.56m をスペースのユニットとしており、主構造は鉄骨に、屋根、外壁を型鉄板と石綿セメント板で多層サンドイッチ構造としたものである（第2図）。なお床も同じように計画されたが、工費の関係でコンクリート床となった。梁に設けられた丸孔は冷房用ダクトである。

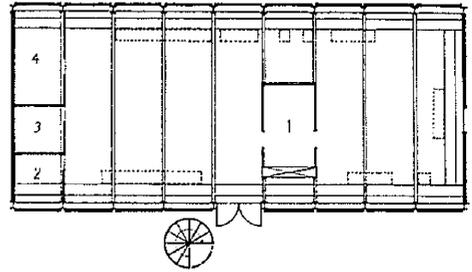
この基本構造が組み合わせられて、3、4、5の平面図に示すように、各種の建築となった。点線に示す部分は増設予定部分である。

ロケットセンターは、6、7、8、9に示すようなものであるが、これは二つの部分、ロケット組立室と、エンジン調整室その他から構成されている。

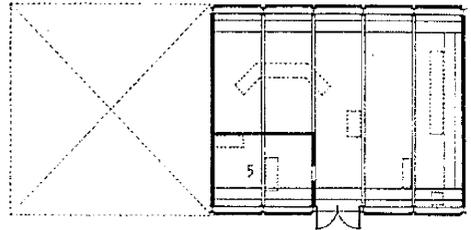
組立室は将来の拡張その他を考慮して、橋梁のように柱の少ない形でまとめられた。調整室の構造は一部鉄筋コンクリートであるが、大部分は基本構造に準じている。なお建設に関係した業者は下記のとおりである。

(1963年4月24日受理)

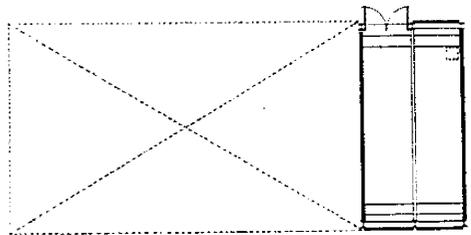
施 工	鉄高組福岡支店
室 調	空研工業KK
電 気	浅海電気KK
アスベスト	浅野スレートKK
デッキプレート	八幡エコンKK
パネル	大機ゴムKK
サッシ	不二サッシKK



第3図 T.C

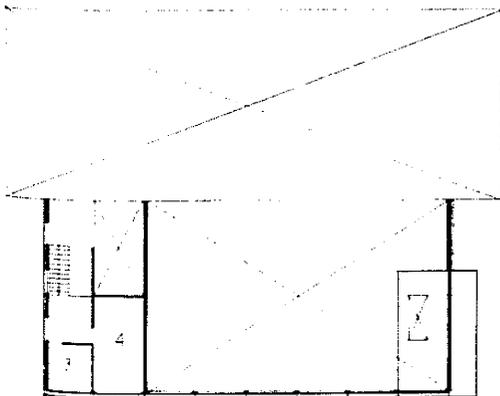
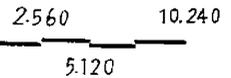


第4図 C.C

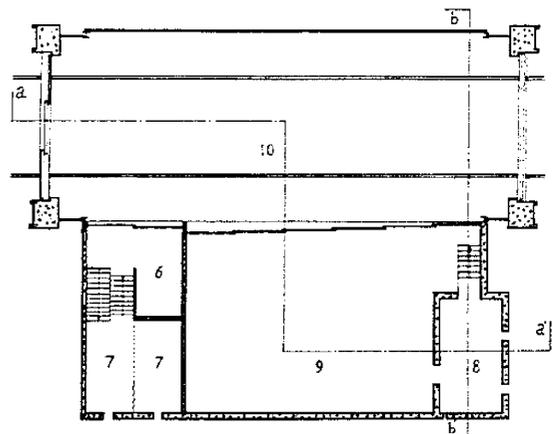


第5図 I.C

- 1. 会議室
- 2. データ整理
- 3. 便 所
- 4. 機 械 室
- 5. 自動交換室
- 6. 計器組立室
- 7. 準 備 室
- 8. コントロー
ル室
- 9. 調 整 室
- 10. 組 立 室



第7図 R.C 2階



第6図 R.C 1階